

1. 基本情報					
施策コード	122		施策名	生涯学習活動の支援	
将来像	1	安全でうるおいのある暮らしができるまち(「暮らし」の分野)			
まちづくりの基本目標	12	生きがいを持って文化的に生活できるまち			
主担当部	教育部		主担当課	生涯学習スポーツ課	係 生涯学習係
担当者	石川 智裕		役職	教育部長	内線 321
関係課	図書館	企画課			

2. 施策の方向		
10年後の姿	生涯学習機会の充実や、特徴を活かした図書館運営などによって、市民の生涯学習に対する意欲が高まっています。また、学んだ市民がその成果を発揮し、新たに指導的立場となって地域で活躍する「学びの循環」が生まれています。	
施策の方向性	1 市民ニーズを踏まえた学習活動を支援します	
	2 「学びの循環」を生かした生涯学習を推進します	
	3 地域の情報拠点としての図書館サービスの充実に努めます	
	4	0
	5	0

3. 構成事業の状況							
(単位:千円)							
No.	事務事業名	実行計画	施策の方向性	担当課	平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算
0110050202	図書館施設維持管理事業		すべて	図書館	10,975	10,377	9,246
0110050204	図書館運営管理事業	対象	3	図書館	52,114	51,232	51,393
0110050205	駅前図書館運営事業		3	図書館	15,058	11,926	12,326
0102010805	多摩六都科学館組合運営事業		1	企画課	49,106	49,106	49,106
0110050103	コミュニティプラザ運営管理事業		1、2	生涯学習スポーツ課	38,907	45,279	204,977
0110050104	文化活動振興事業	対象	1、2	生涯学習スポーツ課	2,897	4,026	4,978
0110050109	地域市民センター等運営管理事業		1、2	生涯学習スポーツ課	97,718	94,340	111,781
0110050111	IT関連講座事業		1	生涯学習スポーツ課	4,157	4,116	4,131
0110050701	生涯学習センター運営管理事業		1	生涯学習スポーツ課	44,325	43,322	47,812
総事業費(施策の合計)					315,257	313,724	495,750

4. まちづくり指標						
指標情報				平成26年度	平成27年度	平成28年度
①	名称	生涯学習活動動向「まなびすと」の登録団体数		目標値	—	129
	説明	まなびすと掲載団体数	単位 団体	実績値	—	127
	抽出方法	2015まなびすとより抽出		達成率	—	—
②	名称	児童書の利用数		目標値	—	185000
	説明		単位 点	実績値	—	180,000
	抽出方法	市内6図書館における児童書の、年間貸出し数		達成率	—	—
③	名称			目標値		
	説明		単位	実績値		
	抽出方法			達成率		

5. 評価		
評価基準	評価	評価理由
投入財源・成果 （「3. 構成事業の 状況」「4. まちづくり 指標」）に対する 評価	総合評価  B	<p>構成事業の状況については、施策の方向性の1には多摩六都科学館組合運営事業、IT関連講座事業、生涯学習センター運営管理事業を、1及び2にはコミュニティプラザ運営管理事業、文化活動振興事業、地域市民センター等運営管理事業を、3には図書館運営管理事業、駅前図書館運営事業を、1～3全てに図書館施設維持管理事業を、それぞれ目的達成の手段として構成しており、「10年後の姿」を達成するための適当な事務事業が展開されている。</p> <p>また、「初めての俳句教室」から句会や、「シニアヨガ事業」からサークルが発足しており、「学びの循環」に繋がっている。</p> <p>まちづくり指標については、主に、多摩地域で稀少な児童書に特化した元町こども図書館の運営の成果として、②の平成27年度実績値が予想以上の増加に繋がった。また多摩六都科学館の利用者も、構成5市で清瀬市民の利用者割合が最も低いものの、平成27年度実績は23.7万人と、過去最高となった。</p>

6. 施策を取り巻く環境				
外部要因	状況	外部要因に対する評価	評価理由	前回評価からの修正 あれば
市民ニーズ の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の高齢化と、特定の図書にリクエスト等の利用が集中してしまう傾向がある。</li> <li>・「清瀬人材バンク・手と手」は派遣依頼のニーズが少ない。</li> </ul>	3. 施策の必要性を高める 3. 施策の必要性を高める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童を含めた若年層の利用の促進と、効率的な図書館資料の収集が必要となる。</li> <li>・「学びの循環」を推進する制度として効果的な運営が求められる。</li> </ul>	
将来人口 の推移	今後、一層高齢化が進むと推測される。	3. 施策の必要性を高める	図書館が今後、地域コミュニティの役割も担っていかねばならない。	
他自治体 との比較	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書（雑誌・新聞・視聴覚資料を除く）の市民一人当たりの所蔵数は、平成27年の調査で多摩26市中9位の5.46冊となっている。</li> <li>・生涯学習推進計画を作成している自治体がある。</li> </ul>	1. 施策遂行に役立つ・有利 3. 施策の必要性を高める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館の根幹となるサービスは、市民のために図書を収集・保存し、提供することであり、所蔵数が多ければサービスの幅も必然的に広がる。</li> <li>・場当たり的ではなく計画的な実施が必要。</li> </ul>	
民間企業・NPO ・市民の動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民との協働を目的とした、図書館音訳ボランティアの高齢化が進んでいる。</li> <li>・IT講習や生涯学習事業関係は民間企業やNPO法人による類似事業が多い。</li> </ul>	2. 施策遂行に不利 4. 施策の必要性を低減する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化が進むことで、音訳の際に声が出しづらくなるなどの影響が出ている。</li> <li>・ITの技術進歩がめまぐるしく民間に任せるほうが効果が高い。</li> </ul>	
法・制度改正 の動向	平成28年4月に「障害者差別解消法」が施行された。	3. 施策の必要性を高める	図書館の障害者を対象としたハンディキャップサービスの一層の充実が必要となる。	
技術革新 の動向	PC、タブレット端末、スマートフォン等、Webを介して情報を得られる環境が社会に浸透してきた。	1. 施策遂行に役立つ・有利	督促の連絡、新着資料や図書館事業のお知らせにEメールを使用することで、事務の省力化を図る。	
その他	中央図書館について、施設・設備の老朽化が見られる。	3. 施策の必要性を高める	中央図書館について、安全・快適に利用できるよう施設・設備の改修の必要性を高める。	

7. 今後の施策課題		
No.	今後の施策課題	左記課題に関する現在の取組状況
①	市民ニーズの把握とニーズにあった講座の開催。	各生涯学習事業（市民講座）でアンケートを実施して要望を取っている。講座に関する情報について、近隣市などと共有を図っている（五市担当者連絡会等）。
②	「学びの循環」が実現されるような取り組みや、民間企業で実施されている類似事業の改廃等、社会情勢の変化を考慮するとともに、自治体の使命を鑑みながら、計画的な事業展開を図っていく。	各講座は、受講者アンケート等を元に内容を決定しているが、生涯学習全体の中長期的な計画や方針は定めていない。また「人材バンク・手と手」は、一定の需要はあるが、制度について創設以来、大きな改正は行っていない。
③	元町こども図書館以外の図書館においても積極的に児童サービスの展開を図る。	駅前図書館を除く全館で、おはなしのじかん、子ども会等の児童サービスを実施しているが、児童書の利用に繋がっていない。
④	人口減少の推計がされている中、また、H28年度策定される公共施設等総合管理計画を受けて、既存の図書館6館運営の今後の展望や、民間委託化が可能か等について検討する。	現在はそれぞれ特色を持たせる形で6館直営を行っている。豊富な知識で地域に根差したきめ細かなサービスを提供できている。